令和５年度　城南学園小学校　学校評価のまとめ

１．基本方針

建学の精神「自主自律（強く　正しい)」「清和気品（清く　やさしい)」のもと、知・徳・体の調和のとれた円満な人間の育成を目指す。『実践力のある魅力ある人間』　を育てるために、３つの柱（柱１―人間としての基礎・基本の徹底「実践力のある魅力ある子づくりをする」、柱２―学力の基礎・基本の徹底「進学校として、実績を上げる」、柱３―学ぶよろこび・活動するよろこびの徹底「明るく、安全、自主性のある学校にする」）をうち立て、徹底していく。さらに、３つの柱をより確かなものとするために、「子どもと教師の距離を縮める」・「体力づくりにこだわる」の２つを実践していく。また、『一人一人がキーパーソン』を合い言葉に、よりよい環境をつくるため、教職員一人一人が積極的に関わっていく。

２．中期目標

（１）教育内容の充実（確かな学力・高い品性を培うために）

（確かな学力）
・アクティブ・ラーニングによる学習意欲、問題解決能力の向上。
・「英語を聞く・話す」力の向上（ネイティブの授業や英語体験学習を通して。)。
・中学入試レベルの漢字・計算の徹底習得。
・卒業までに５００冊読破の豊富な読書体験。

（高い品性）
・明るくはきはきとした挨拶と応答の定着。
・正しく美しい言葉遣いの定着。
・やる気、集中力、持続力を養う「立腰」の定着。
・旺盛なボランティア精神の育成。
・強い愛校心の育成（たてわり活動を活かして。)。
・「強い心」を育む体力の向上（縄ギネス・マラソン大会などを通して。)。

①教職員の資質向上
　・校内研修体制の再構築
　・外部研修会への積極的参加（府教育センター、国立附属小学校等）
②大学との連携
　・個々の児童に合ったよりよい授業方法の追究
　・学生による授業等への支援体制確立に向けての模索
③ＩＣＴ教育の推進
　・タブレット等の新しい情報機器の研究及び導入
　・校内無線ＬＡＮのできる環境作り
④中学校進学指導の強化
　・補習（放課後)・講習（春期・夏期・冬期）の充実
　・保護者への進学情報のより細やかな提供

（２）放課後活動の充実
①城南アフタースクールの実施
②課外クラブの拡充（プログラミング教室・キッズダンス等）

（３）幼稚園との連携（２０名の進学者を確保するために）
①幼稚園児と児童の日常交流
②課外クラブの幼小連続化
③幼稚園保護者対象の授業公開
④幼稚園保護者対象の学校説明会実施
⑤小学校行事への参加依頼の強化

（４）広報活動の強化
①近隣地区を重点としたチラシ等による情報発信
②見てもらえるホームページの工夫
③入試説明会の工夫
　・在籍児童の活用
　・年中児対象の体験入学
④他の私学と連携した広報活動の模索

３．自己評価

（１）組織　学校評価委員会（校長、教頭、事務局長、教務部部長、教務部副部長）

（２）開催　令和６年２・３月

（３）評価のために使用した資料
①令和５年度学校教育診断保護者アンケートの結果（資料①を参照）

・実施：令和６年２月
・対象：在校生の全保護者
②令和５年度学校教育診断教員アンケートの結果（資料②を参照）
・実施：令和６年２月
・対象：小学校教員
③その他
・令和５年度学校経営方針
・入学試験５か年の出願状況
・令和６年度中学入試受験者合格者数

（４）内容
①上の資料を基に、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」について、自己評価を行った。（下表）
②自己評価に基づき、学校関係者評価委員会の資料を作成した。

（５）自己評価の結果

・評価（A．よくできた　　B．できた　　C．あまりできなかった　　D．できなかった）

目標と取り組みの重点（P）	取り組みの状況（D）	自己評価（C）
１．実践力のある魅力ある子づくりをする		B
①挨拶・応答の実践の工夫を行う。 ・「スローガンを掲げて、門での挨拶活動を行う。」「児童会による働きかけを行う。」「『挨拶・応答、言葉遣い』の標語・ポスターコンクールを実施する。」等の実施。	・「挨拶・応答、日本一」を掲げて、児童会執行部、生活委員会、各学級による玄関などでの挨拶活動を実施した。児童会による新しい工夫はできなかった。 ・標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすることで、児童の意識向上に役立った。	①B
②正しく美しい言葉遣いの定着の工夫を行う。 ・「敬語、『さん』・『ぼく、わたし』等を使えるようにする。」「『挨拶・応答、言葉遣い』の標語・ポスターコンクールを実施する。」等の実施。	・授業時間・休憩時間にかかわらず、児童への指導を行った。概ね、敬語、「さん」・「ぼく、わたし」を使えるようになってきている。 ・標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすることで、児童の意識向上に役立った。	②B
③「立腰教育」の実践の工夫を行う。 ・「１日の中で、『立腰』を意識できるような工夫を行う。」「年間を通して『立腰』を意識できるような工夫を行う。」等の実施。	・朝に「立腰タイム」を実施、授業中の指導も行った。正しい姿勢で頑張れる児童は多いが、そうでない児童への継続した働きかけは必要である。 ・立腰タイムの強化週間を設けて、意識付けのための「立腰の歌」を歌った。教師による声掛けを継続した。	③B
④ボランティア精神の育成を行う。 ・「ボランティア清掃に取り組む。」「異年齢の人たちとの関わりの中でボランティア活動に取り組む。」等の実施。	・校外学習の際は、清掃活動を行った。しかし、学校周辺の清掃活動はほとんどできなかった。 ・２年生による１年生・年中児との交流会（お祭り）を実施した。 ・図書委員会による幼稚園児への絵本の読み聞かせを実施した。保健委員会による幼稚園児への手洗い指導などはできなかった。 ※学校教育診断：「ボランティア」教員３２％→６３％	④C
⑤「食へのこだわりを持つ」実践の工夫を行う。 ・「『感謝』の心で食べることができるような工夫を行う。」「食への関心を高めていく工夫をする。」等の実施。	・アンケートでは肯定的回答が、保護者７５％→８０％、教員４２％→７４％とそれぞれ上昇している。各クラスで「食」についての話をしたり、学級通信で話題にしたりなどの工夫をしてきたが、よりおいしい給食になるように、業者へ働きかけてきた。 ・学年での栽培や、芋掘り・稲刈りの際に、児童に考えさせることができたが、学年により差があった。 ・食育をテーマとした講話は実施できなかったが、保護者会による「給食試食会」を実施した。 ※学校教育診断：「食育」保護者７５％→８０％、教員４２％→７４％	⑤B
⑥強い愛校心の育成の工夫を行う。 ・「リーダーシップ及びフォロワーシップを育み、愛校心を育てるために、たてわり活動を行う。」「愛校心育成の工夫を行う。」等の実施。	・登下校時について、学校の看板を背負って歩いていることを継続して話した ・通常のたてわり活動以外に、土曜日の学習登校日に、３年生がリーダーとなって進める、１～３年生によるたてわり活動を実施した。 ・委員会活動では、学校のために何ができるかを考えさせて活動を進めた。 ・３学期は、６年生と他年生との交流（一緒に遊ぶ。）	⑥B

	を実施した。 ・異学年との交流・親睦を図ることや、リーダーシップ及びフォロワーシップの育成、愛校心を育てることにつながるたてわり活動を、年間を通して実施できた。 ※学校教育診断：「愛校心」保護者９７％、教員 100 ％	
２．進学校として実績を上げる		**B**
①「主体的・対話的で深い学び」の研究と推進を行う。 ・「情報収集し、教員で情報共有するとともに、各教員が授業に取り入れていく。」等の実施。	・「主体的・対話的で深い学び」について、各教員が授業で実践してきた。校内授業研究会を実施し、校外研修会への参加希望があれば、参加できるように配慮した。 ※学校教育診断：「研修成果の共有状況」教員５８％→７４％	①B
②ＩＣＴ教育の推進を行う。 ・「設備・機器を揃えるとともに、授業で活用していく。」等の実施。	・１人１台のタブレットを、電子黒板、教材提示装置とつなぎ、授業で活用できた。アプリ「ロイロノートスクール」の「ロイロ認定校」をめざし、全教員で取り組んできた。 ※学校教育診断：「ＩＣＴ機器活用」保護者１００％	②A
③「『プログラミング的思考』育成の研究と推進」を行う。 ・「情報収集し、教員で情報共有するとともに、各教員が授業に取り入れていく。」等の実施。	・「Springin'（プログラミング用アプリ）」を活用した授業が十分には行えなかった。教材活用の研修が継続して必要である。	③C
④漢字・計算の徹底習得を行う。 ・「漢字の先取り学習、漢字・計算の復習を計画的に行う。」「漢字検定に取り組む。」等の実施。	・漢字の先取り学習（「読み」は４年生末までに、「書き」は５年生末までに習得）とともに、朝の計算を実施した。各学期末・年度末に漢字・計算の復習を行った。 ・年間３回、漢字検定に取り組んだ。試験の月は、漢検用の練習も行った。年度末には、該当学年級をほぼ合格できた。更に、該当学年級よりも上の級にチャレンジし、合格した児童もいた。 ※該当学年級よりも上の級の合格者は全体の３３％	④B
⑤豊富な読書体験を行う。 ・「読書記録をつけるとともに、励みになる工夫を行う。」等の実施。	・読書記録（５０冊分の読書が終わるごとに色の異なるカードが配付される仕組み）の実施と、１００冊、２００冊等、各到達冊数に至った児童名や上位者名を通信で知らせる工夫を行い児童の励みとした。学年ごとの城南課題図書（各学年２０冊ずつ）読破をクラス全員が達成したのは２クラス、５００冊を読破した６年生は４２名中３０名。（例年は約半数。）励ましの声掛けや読書量を増やす工夫を来年度も行っていく。 ※学校教育診断：「読書の推進」保護者９８％、教員７４％→８９％	⑤B
⑥個々に応じた進路実現のためのきめ細かい指導を行う。 ・「講習、特別講習、実力テスト等を実施する。」「算数の習熟度別指導を実施する。」等の実施。	・夏冬の講習、特別講習（６年生は月・水曜日に、５年生は３学期から実施）を行い学力の向上に役立てた。実力テスト（１～５年生１回、６年生５回）を実施し、６年生には個人データに基づく進路指導を行い、個々に応じた進路実現に役立てた。業者テストも採り入れた。 ・４～６年生算数の３段階別指導を実施した。学力の向上に役立てた。 ・ＡＩを活用した復習アプリを導入し、学力の定着に役立てた。 ※学校教育診断：「進路指導」保護者９１％、教員７４→９５％、「授業が楽しい」保護者９２％、「授業がわかりやすい」保護者９７％、「指導方法の工夫・改善」教員７９％→９５％	⑥B
⑦教職員研修（学級経営研修会・授業研究会・一般研修会）を行う。 ・「各種研修会を実施する。」等の実施。	・学級経営・教科研修会（年４５回）、授業研究会（全員に周知しての授業研究会（全教員参加：年５回、若手教員の授業：年３６回、計４１回）、一般研修会（年１０回）を実施した。 ・授業や学級経営における教員の指導力向上につなげるため、更に内容を検討し、来年度も実施していく。 ※学校教育診断：「授業研究会等」教員５８％→ 100 ％、「校内研修会」教員４７％ →９０％	⑦B
３．明るく、安全、自主性のある学校にする		**C**
①一生懸命体験を行う。	・運動会では競技を、総合学習発表会では劇発表を復活	①B

・「各行事に一生懸命に取り組ませる。」等の実施。	させ、行事の魅力を高めた。その他の行事においても、子どもたちの一生懸命さ、意欲を引き出すことにつなげた。 ※学校教育診断：「学校行事」保護者９９％、教員９０％	
②「学校いじめ基本方針」に基づく、いじめの未然防止を行う。 ・「情報収集に努める。」「全教職員でいじめの未然防止に取り組む。」等の実施。	・週末・月末・学期末にアンケートを実施し、情報収集に努めた。 ・年度最初に「いじめは絶対に許さない」という宣言を行った。学級経営研修会では情報共有を行った。 ・子どもたちの関係をより深くより迅速に把握することや保護者対応について、まだまだ検討すべき点が残った。 ※学校教育診断：「いじめや暴力のない学校作り」保護者９４％	②C
③人権にかかわる教育を行う。 ・「道徳教育を推進する。」「人権教育の授業研究会を実施する。」「人権についての標語・ポスターコンクールを実施する。」等の実施。	・各学年、年間計画に基づいて道徳科の授業を実施した。 ・各教科において人権の観点を取り入れた授業を行い、全教員による人権教育の授業研究会を実施してきたが、新たな取り組みができていないところに課題が残る。 ・標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすることで、児童の意識向上に役立った。 ※学校教育診断：「人権の研究体制」教員６３％、「人権の教育体制」教員６３％	③C
４．「子どもと教師のきょり」を縮める		**B**
①「励ましの言葉を多く」を実践する。 ・「共感、受容のカウンセリングマインドで児童の指導に当たる。」等の実施。	・共感・受容のカウンセリングマインドで児童の指導にあたった。アンケートでは、保護者・教員ともに評価は高いといえるが、保護者の５％はそうでないと捉えているので、具体的な研修を来年度も実施していく。 ※学校教育診断：「共感、受容のカウンセリングマインド」保護者９５％、教員９０％	①B
５．「体力づくり」にこだわる		**B**
①「足、腰の鍛錬」を実践する。 ・「足、腰を鍛える運動を取り入れる。」「『縄ギネス』や『縄はげみ』に取り組む。」「持久力を向上した上でマラソン大会に取り組む。」等の実施。	・足・腰を鍛える活動を体育の授業に取り入れているが、毎回実施となると難しかった。 ・体育の授業の中でウオーミングアップに縄跳びを取り入れた。どれだけ継続して跳べたかの「縄ギネス」の記録日を各学期２回、また、色々な技に挑戦する「縄はげみ」の検定日を各学期末に設けて取り組むことができた。 ・マラソン大会に向け、２月を強化月間（体育の時間を含めて毎日走る。）として取り組んだ。 ※学校教育診断：「体力の向上」保護者９８％、教員８４％	①B
６．附属保育園・附属幼稚園・附属中高・大阪総合保育大学との連携を進める		**C**
①附属保育園・附属幼稚園と連携する。 ・「園児対象の行事を実施する。」「保護者対象の行事を実施する。」等の実施。	・年長児対象の授業見学会を実施した。 ・２年生による１年生・年中児との交流会（お祭り）を行った。 ・図書委員会による絵本の読み聞かせを実施した。保健委員会による手洗い指導は実施できなかった。 ・年中・年長児（３・４歳児）対象の体験入学への案内を行った。 ・附属幼稚園年少・年中児保護者対象の授業見学会を実施した。年長児保護者対象の説明会を行った。（内部進学者：幼稚園１３名、保育園１名、計１４名）	①C
②附属中高と連携する。 ・「情報交換会等を実施する。」等の実施。	・情報交換会は実施できなかった。 ・中高の先生方による出張授業を行った。 ・中学校入試に際して、特待生の基準や内部推薦入試の打ち合わせ、受験者についての情報交換を行った。 ・中高の教育内容をより知るための、他の関わりも検討していく必要がある。（内部進学者４名）	②C
③大阪総合保育大学と連携する。 ・「大学の先生方の力を借りる。」等の実施。	・大学の先生の指導による授業研究会や出張授業を考えていたが、できなかった。連携できる点を検討していく。	③D
７．募集状況の改善を図る		**B**

①入学者数増のための工夫を行う。 ・「体験入学や広報の仕方等の工夫を行う。」等の実施。	・体験入学会の対象者を、年長児・年中児とした。 ・幼稚園・保育園について、インターナショナルスクールへも働きかけた。 ・入試説明会案内チラシの４月からの配布、区の広報誌への広告掲載、卒業生へのパンフレット送付に加えて、フェイスブックなどＳＮＳでの広告・発信、次年度に向けての入試説明会（１１月）や学校探検会（３月）を行った。更なる工夫をしていく。 （入試結果：志願者数微減、入学者数微減。）	①Ｂ

４．学校関係者評価

（１）組織　学校関係者評価委員会（大阪総合保育大学学長、城南学園中学校・高等学校校長、城南学園幼稚園園長、保護者会会長、同窓会城楠会会長、地域代表、校長、教頭、事務局長、教務主任、各部長）

（２）開催　令和６年３月２５日（月）

（３）評価のために使用した資料
学校関係者評価委員会設置要綱、自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料

（４）内容
①管理職から自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
②結果を学校評価委員会でまとめた。

（５）学校関係者評価委員会のまとめ
①意見・感想等
（入学志願者を増やすために）
・人気のある小学校から学べるところを探し、取り組みに活かす。
・広報活動について、まだまだ取り組めそうな点を探し、実践していくとよい。
・給食が４回から５回に増えた点を知らせるなど、家庭にとって魅力となる点を広報していくとよい。
・給食時、別場所（坂上記念ホール上階のカフェテリアなど）を利用するなど、城南だからこそできる内容を増やしていくとよい。

（教育活動について）
・コロナ明けで行事が活発になってきた。今後も授業内容の向上に取り組んでいく。
・教員は、自己評価について、前向きに厳しく判断している。今後も、いじめのない学校になるよう、細かいケアを行い、子どもの気になる動きを迅速に察知していってほしい。
・校舎に向かっての挨拶はよい。商店街などを歩いている時、進んで挨拶できるようになると更によい。

◎前年度に比べて保護者の評価は上がっているが、教員の自己評価が低い。ストレスにさらされている教員は疲弊しがちで、自己評価も厳しくなる傾向がある。今回の高い評価を今後の頑張りにつなげていく。
また、「これをしなければ。」という思いにこだわってしまうと、できなかった場合は、「自己否定」につながってしまう。「少しでもできたところを大きく肯定的にとらえていく」ことが大事である。できたことを大切にしていくと、教員がよりポジティブに物事に取り組んでいくことができる。

②まとめ
「自己評価の結果」では、概ね「できた」との評価となったが、「ボランティア精神の育成」「『プログラミング的思考』育成の研究と推進」「いじめ・人権に関わる教育」「附属保・幼・中・高・大との連携」に課題が残った。これまでの活動を積み重ねていくとともに、新しい取り組みを考え実践していく必要がある。「入学者を増やすための工夫」については、複数回の「体験入学」、「入試対策会」、「学校探検」、「新たな幼稚園・保育園の開拓」とともに、より教育効果が高まるよう時程の刷新を行った。今後も新たな取り組みを模索するとともに、総合学園の強みをいかし、大阪総合保育大学や他部署の各専門家からのアドバイスを受けるなどの連携を図っていく。
在学児童の保護者の評価は高いので、城南学園小学校の良さをいかに学外の方に伝えていくかの方策を考え実践していく必要がある。
保護者アンケートをみると、概ね、保護者の方には、肯定的に捉えていただいている。しかし、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えておられる保護者の方も少なからずおられることから、気を引き締めて、これからも改善に取り組んでほしい。アンケートの否定的な回答にも目を向けて、取り組んでいくことが改善につながる。
自己評価の分析結果、及び、教員による年度末反省であがってきた課題についても、学年・校務分掌など、各部門で検討し、教員全員でその対応を協議・強化していくことが大事である。

５．今後の改善方策（Action）　（令和６年度に向けて）

「学びに向かう力」が「育つ教室」　～みんなでつくろう！「子どもが、先生が、『育つ学校』」～

（１）**落ち着きと明るさがいっぱい！**

①挨拶・応答の指導の実施

・児童会によるスローガンを掲げ、校門での挨拶活動を中心に挨拶・応答力を高める。

②正しく美しい言葉遣いの指導の実施

・生活指導部を中心に日々の「敬語、『さん』・『ぼく、わたし』等の丁寧な言葉遣いの指導と評価を行う。

③「立腰教育」の実施

・１日の始まり、授業の始まり・終わり等で「立腰」を意識できる場を設け、習慣化する。

④見通しをもって取り組む学校生活や学習活動の実施

・あらゆる場において、めあてや振り返りの場を設け、主体的・対話的で深い学びになるような活動にする。

その力試しの場として、「運動会」「学習発表会」「宿泊行事」等では実践力を鍛える。また、「体力づくり」「『縄ギネス』や『縄はげみ』」「マラソン大会」等も同様である。

（２）**温かいまなざしがいっぱい！**

①肯定的な児童理解に基づく肯定的な言葉掛けの促進

・毎月の学級経営研修会で、配慮を要する児童や学級経営の共通理解と対応の検討を行う。

②愛校心につながる集団活動の充実

・たてわり活動において、リーダーシップ及びフォロワーシップを育み、集団のよさを感じる場の導入により愛校心を醸成する。

③ボランティア精神の育成の推進

・幼稚園等の異年齢の人たちとの関わりの中でボランティア活動を実施する。

④「学校いじめ基本方針」に基づき、いじめの未然防止の組織的対応を改善・充実

・各学級での定期的なアンケートの実施とその情報収集の徹底を図る。

・組織的な対応力について、毎月生活指導部で実践的研究を行う。

⑤人権にかかわる教育の啓発の推進

・各教科等と連動した道徳教育を推進する。

・人権教育をテーマに授業参観により保護者啓発を実施する。

・人権についての標語・ポスターコンクールを実施し、児童・保護者の意識の高揚を図る。

（３）**考える愉しさがいっぱい！**

①「主体的・対話的で深い学び」の実践的研究の推進

・校内で６つの提案授業をもとに、「考える愉しさ」について校内で実践的研究を行う。

・「見通し・振り返り」活動をあらゆる学習に取り入れ、児童の意識の変容を探る。

・各学級、各教科等の学習活動において、「学びに向き合う力」が育つ視点から授業改善を行う。

②ＩＣＴ教育の推進

・ｉＰａｄや電子黒板、アプリ「ロイロノート」等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善の具現化を図る。

③探究活動の実施

・宿泊活動で。総合的な学習の時間で。

④豊かな読書活動の実施

・読書記録をつけて励みにして読書活動を促進する。

（４）その他

①進路実現のための個に応じたきめ細かな指導の実施

・「週２日の講習」「夏休みの特別講習」「実力テスト」等を実施する。

・算数科での習熟度別指導を適時導入する。

・漢字・計算等の確実な習得の場を設ける。

「漢字の先取り学習、漢字・計算等の復習を計画的に行う。」「漢字検定」等の実施。

②校内研修の改善・充実化　－本校の実態に応じた校内研修－

・授業改善のための校内研修（６回の授業研究「考える愉しさのある学習活動」）を実施する。

・「子どもが育つ学校」創りのための校内研修（１２回　指導講師　校長）を実施する。

テーマ　「児童理解」「授業と評価」「教師力」「探求とＩＣＴ」等

③幼小、小・中合同研究の実施

・幼・小の合同研究会、幼・小・中の合同研修会（７月）を実施する。

（５）附属保育園・附属幼稚園・附属中高・大阪総合保育大学との連携を進める

①附属保育園・附属幼稚園との連携

・合同研究会、児童・幼児の交流を実施する。

②附属中高との連携

・合同研修会、情報交換会等を実施する。

③大阪総合保育大学との連携

・「大学の先生方の力を借りる。」等を実施する。

（６）募集状況の改善を図る

①入学者数増のための改善課題を明らかにする。

・私学として特長ある学校づくりについての課題を明らかにする。

・広報の仕方等について課題を把握し、改善のための方策等を明らかにする。

（資料①）

学校教育診断（保護者用）アンケート結果のまとめ（令和５年度末）

〇実施日　　令和６年２月
〇調査対象　　保護者１９９名／２１６名（無記名で回収・回収率９２.１％）
〇結果の分析
※「肯定的回答（肯）」とは、アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とを合わせた数値である。
※「否定的回答（否）」とは、アンケートにおいて、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」とを合わせた数値である。

・「肯定的回答」が９０％を超えるのは、
①「４　学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている。（肯・１００％）」
①「１４　学校は、タブレットパソコン、電子黒板などのＩＣＴ機器を授業で活用している。（約１００％）」
③「１　学校は、建学の精神・教育方針をわかりやすく伝えている。（肯・約９９.５％）」
④「３　学校は教育情報について、学級通信、懇談会、ホームページなどによる提供の努力をしている。（肯・約９９.０％）」
④「１０　運動会・学習発表会などの学校行事は、活発である。（肯・約９９.０％）
⑥「９　学校は、体力の向上に力を入れている。（肯・昨年度約９３.７％→今年度約９８.０％）」
⑦「８　学校は、読書指導に力を入れている。（肯・約９７.５％）」
⑧「２　子どもは、学校に誇りを持っている。（肯・約９６.５％）」
⑧「１６　子どもは、授業がわかりやすいと言っている。（約９６.５％）」
⑩「５　地震や台風などの対応について、子どもや保護者に行動マニュアルが知らされている。（肯・約９６.０％）」
⑪「１３　学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている。（肯・約９５.５％）」
⑫「１１　学校は、子どもの間違った行動に対し、適切に指導している。（肯・約９５.０％）」
⑬「１２　学校は、共感、受容などの態度で、子どもの指導にあたっている。（肯・約９４.５％）」
⑭「６　学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。（肯・約９３.５％）」
⑮「１５　子どもは、授業が楽しいと言っている。（肯・約９１.５％）」
⑯「１７　学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている。（肯・約９０.５％）」
の１６項目である。（※番号が中抜きになっている８項目は、過去６年間で最高の数値。）

・「４　学校は、保護者が授業を参観する機会を設けている。（肯・１００％）」は、前年同様、過去６年間で最高の数値となった。全学年の学習参観をコロナ禍前に戻して開催したところが評価されたと考える。

・「１　学校は、建学の精神・教育方針をわかりやすく伝えている。（肯・約９９.５％）」「２　子どもは、学校に誇りを持っている。（肯・約９６.５％）」「１０　運動会・学習発表会などの学校行事は、活発である。（肯・約９９.０％）は、ともに過去６年間で最高の数値となった。いわゆる「愛校心」の向上は、日頃から建学の精神・教育方針をもとに教育活動を進めていることと、求心力を高めるたてわり活動の実施や、行事の復活も要因と考える。

・「８　学校は、読書指導に力を入れている。（肯・約９７.５％）」は、評価が非常に高く、教員アンケートの「読書の推進（肯・昨年度約７３.７％→今年度約８９.４％）」も評価が高い。「図書だより」で読書量の多い児童を常時掲載していくなどの取り組みを始めており、読書の好きな児童を増やすための更なる取り組みを今後も考え実践していく。

・「９　学校は、体力の向上に力を入れている。（肯・昨年度約９３.７％→今年度約９８.０％）」は、昨年度よりも約４ポイント上昇し、過去６年間で最高の数値となった。５年ぶりにマラソン大会を復活させた。運動会は午前中の実施だが、競技数を増やした。これらのことが要因の１つと考える。来年度も体力向上に効果的な活動を模索し実践していく。

・「生徒指導」に関する４項目「６　学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。（肯・約９３.５％）」「１１　学校は、子どもの間違った行動に対し、適切に指導している。（肯・約９５.０％）」「１２　学校は、共感、受容などの態度で、子どもの指導にあたっている。（肯・約９４.５％）」「１３　学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている。（肯・約９５.５％）」は、いずれも９０％台で、今年度も評価は高いといえる。手を抜くことなく、今後も改善に努めていく。

・「１５　子どもは、授業が楽しいと言っている。（肯・約９１.５％）」は、昨年度とほぼ同じだが、「１６　子どもは、授業がわかりやすいと言っている。（肯・約９６.５％）」の項目は、過去６年間で最高の数値となった。タブレットパソコンのより効果的な活用はもとより、よりよい授業展開の構築など、来年度も改善に取り組んでいく。

・「１７　学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている。（肯・約９０.５％）」は、過去６年間で最高の数値である。「お話を聞く会」（外部講師や本校教員、家族の方などから、年間２０人に話を聞く活動）や、医師、弁護士、建設業者など様々な職業の方々をお招きしてお話を伺う活動を継続してきたことが要因と考える。

・「肯定的回答」が、８０％を切るのは、
「７ 学校は、食へのこだわりを持つように指導している。（肯・昨年度約７４.９％→今年度約７９.５％）」の１項目である。

・「７ 学校は、食へのこだわりを持つように指導している。（肯・昨年度約７４.９％→約７９.５％）」は、約４.５％上昇した。教員アンケートでは、「健康・食に関する指導（肯・昨年度４２.１％→今年度７３.７％）」と、約３２ポイント上昇した。各教員による児童への働き掛けを行ってきたとともに、料理内容の見直しや、給食業者のコンペなどの実施が要因と考える。

・概ね、保護者には、肯定的に捉えていただいているが、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えておられる保護者の方も少なからずおられることから、気を引き締めてこれからも改善に取り組んでいく所存である。
・内部の評価が高い割には、児童募集増にはつながっていない。本校の良さをいかに外部に伝えていくかが大きな課題である。学校周辺地域のまだ回っていない園への働き掛けなど、来年度も新たな具体策を検討し実施していく。

（資料②）

学校教育診断（教員用）アンケート結果のまとめ（令和５年度末）

〇実施日　令和６年２月
〇調査対象　教員１９名（常勤・無記名・回収率１００％）
〇結果の分析
※「肯定的回答（肯）」とは、アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とを合わせた数値である。
※「否定的回答（否）」とは、アンケートにおいて、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」とを合わせた数値である。

Ⅰ学校運営
・「肯定的回答」が７０％を超えるのは、「建学の精神（肯・昨年度８４.２％→今年度１００％）」「愛校心（肯・昨年度８９.５％→今年度１００％）」「ホームページ活用（肯・昨年度今年度とも１００％）」「授業公開状況（肯・９４.７％）」「教員・教科間連携（肯・８４.２％）」「教育計画（肯・昨年度８９.４％→今年度７８.９％）」「危機管理対応（肯・７８.９％）」「危機管理の役割分担（肯・７３.６％）」の８項目である。

・「建学の精神（肯・昨年度８４.２％→今年度１００％）」「愛校心（肯・昨年度８９.５％→今年度１００％）」「ホームページ活用（肯・昨年度今年度とも１００％）」「授業公開状況（肯・９４.７％）」の４項目の評価が高い。
・「建学の精神（肯・昨年度８４.２％→今年度１００％）」は約１６ポイント、「愛校心（肯・昨年度８９.５％→今年度１００％）」は約１０ポイント上昇した。昨年度、それぞれ前年度より約１０ポイント低下したため、今年度は、イベントごとに建学の精神や教育目標を振り返らせたり、土曜日の学習登校日に１～３年生によるミニたてわり活動を取り入れたりなどの工夫を行ったことが、高い評価につながったと考える。
・「ホームページ活用（肯・昨年度今年度とも１００％）」は、本年度も学校生活における児童の様子をホームページでこまめに紹介していったことや、フェイスブック、インスタグラムの活用や、ホームページからの体験会の申し込みや入試の出願など、ホームページを活用したことが、高い評価につながっていると考える。
・「授業公開状況（肯・９４.７％）」は、学習参観をコロナ前の形態に戻し、回数を減らすことなく実施してきたことが要因と考える。

・「教員・教科間連携（肯・８４.２％）」は、近年８０％前後で推移している。児童の欠席・遅刻（理由も）について、ＩＣＴの活用で情報を瞬時に共有できるようにしたり、教職員間の情報伝達を容易にしたりしてきたが、下校時刻前の連絡については直接担任に知らせに行くなど、ＩＣＴ頼みになっていないか検討していく。
・「危機管理対応（肯・７８.９％）」「危機管理の役割分担（肯・７３.６％）」は、近年８０％前後で推移している。火災・地震などの対応は進んでいるが、不審者対応などまだまだ考えていかなければならない点があるので検討していく。

・「肯定的回答」が７０％を下回るものの中で、「財務に関する意識（肯・５２.６％）」は大きな変化はないが、志願者数の伸び悩みの中、価格高騰やＩＣＴ関連での経費増加もあり、教員の関心は高くなっている。引き続き、学園広報での説明とともに、教員への情報提供を分かりやすく行っていく。
・「会議の有効性（肯・昨年度５７.９％→今年度６８.４％）」は、約１０ポイント上昇した。終礼ではＩＣＴの活用で時間の短縮を図ることができたが、教育の活性化を図るためや教員の意見を広く聞くための部会や学年会などの開催については、時間をコントロールし、内容を精選し会議を進めていく。

Ⅱ教育内容
・「肯定的回答」が７０％を超えるのは、「情報能力育成（肯・昨年度８４.２％→今年度９４.７％）」「情報モラルの指導（肯・昨年度６３.２％→今年度８９.５％）」「学校行事（肯・８９.５％）」「読書の推進（肯・昨年度７３.７％→今年度８９.４％）」「環境教育の実践的態度の育成（肯・昨年度７３.７％→今年度８４.２％）」「スポーツ（肯・昨年度７３.７％→今年度８４.２％）」「芸術文化（肯・昨年度６３.１％→今年度８４.２％）」「健康・食に関する指導（肯・昨年度４２.１％→今年度７３.７％）」の８項目である。

・「情報能力育成（肯・昨年度８４.２％→今年度９４.７％）」は昨年度よりも約１０ポイント上昇、「情報モラ

ルの指導（肯・昨年度６３.２％→今年度８９.５％）」は昨年度よりも約２６ポイント上昇した。ＩＣＴで活用しているロイロノートスクール（アプリ）について、教員の質を更に上げるため、「ロイロ認定校」になるべく取り組んでいることが要因と考えられる。情報モラルについては、アンケート調査を行い、児童・保護者にフィードバックすることができた。
・「スポーツ（肯・昨年度７３.７％→今年度８４.２％）」は、約１０ポイント上昇した。運動会は午前中の開催としたが競技数を増やし、保護者数の制限は無しとした。また、マラソン大会の復活も要因と考える。
・「読書の推進（肯・昨年度７３.３％→今年度８９.４％）」は、約１６ポイント上昇した。昨年度、教員の評価が低下したので、今年度は各教員が児童への働き掛けを増やしたことが理由と考えられる。「図書だより」で読書量の多い児童を常時掲載していくなどの取り組みも継続していく。
・「環境教育の実践的態度の育成（肯・昨年度７３.７％→今年度８４.２％）」は、約１０ポイント上昇した。昨年度、教員の評価が低下したので、今年度は各教員が児童への働き掛けを増やしたことが理由と考えられる。
・「芸術文化（肯・昨年度６３.１％→今年度８４.２％）」は、約２１ポイント上昇した。図工科での様々なアプローチ、外部講師による５・６年生への劇指導、発表会では劇の復活などの取り組みが要因と考える。
・「健康・食に関する指導（肯・昨年度４２.１％→今年度７３.７％）」は、約３２ポイント上昇した。今年度は、給食内容を向上させるための業者への働き掛けを多くするとともに、週４日から週５日の給食に向けて業者の選定を行うなどの取り組みを行うことができた。

・「肯定的回答」が７０％を下回っているのは、「クラブ活動（肯・６８.４％）」「人権教育の研究体制（肯・６３.２％）」「人権教育の教育体制（肯・６３.２％）」「児童会活動（肯・６３.２％）」「ボランティア（肯・昨年度３１.６％→今年度６３.２％）」「環境問題意識の向上（肯・昨年度３６.８％→今年度５７.９％）」「国際理解（肯・３６.９％）」の７項目である。

・「人権教育の研究体制（肯・６３.２％）」「人権教育の教育体制（肯・６３.２％）」は、ともに昨年度と変わらずという結果になった。研究授業の実施など取り組みが不十分だったといえる。来年度は、様々な課題や指導方法について研究し、児童の意識を高める学習方法を実践していく。
・「児童会活動（肯・６３.２％）」は、あまり変化がない。今年度、図書委員会は幼稚園に出向いての読み聞かせを行うことはできたが、目立った活動はできなかった。来年度は児童のアイデアを支援していく。
・「環境問題意識の向上（肯・昨年度３６.８％→今年度５７.９％）」は、約２１％上昇した。SDGs（持続可能な開発目標）について取り組み始めた学年もあり、SDGs に関連させた全学年での取り組みを進めていく。
・「ボランティア（肯・昨年度３１.６％→今年度６３.２％）」は、約３１ポイント上昇した。校外学習や林間学舎などの際に、「ボランティア清掃」を実施できた。来年度は、「清掃」以外の内容を考え出して実践していくことが大切だが、なかなか進んでいない。まず１つを決めて実施していく。
・「国際理解（肯・３６.９％）」も、低いままである。外国の方とふれ合う英語校外学習、英語体験学習は今年度も実施できなかった。オンラインでの対話など、できることを考えて進めていく。

Ⅲ生徒指導・支援
・「肯定的回答」が７０％を超えるのは、『生徒指導』の「家庭との連携状況（肯・昨年度７８.９％→今年度８９.５％）」「指導方針の一貫性（肯・８４.２％）」「生活面の指導（肯・昨年度６８.４％→今年度７８.９％）」、『児童支援』の「学習指導（肯・昨年度７９.０％→今年度９４.７％）」「進路指導（肯・昨年度７３.７％→今年度９４.７％）」「カウンセリングマインドを取り入れた指導（肯・８９.５％）」の全項目である。

・『生徒指導』について、「家庭との連携状況（肯・昨年度７８.９％→今年度８９.５％）」は、約１０ポイント、「生活面の指導（肯・昨年度６８.４％→今年度７８.９％）」は、約１０ポイント、それぞれ上昇した。昨年度は一昨年度より低下したことを踏まえて取り組んだことが要因と考える。生活面で個々に応じた対応が必要な児童が出てきているので、更に研究を進めるとともに、トラブルの解決に向かって、担任１人だけでなく、学年の担任団や他学年の教員の力を借りるなどして、来年度も家庭と連携しながら組織的に対応していく。

・『児童支援』について、「学習指導（肯・昨年度７９.０％→今年度９４.７％）」は、約１６ポイント、「進路指導（肯・昨年度７３.７％→今年度９４.７％）」は、約２１ポイント、それぞれ上昇した。「学習指導」は、近年、学力の向上に大きな支援の必要な児童が出てきており､継続的な取り組みとともにＩＣＴをうまく活用しながら、指導方法の工夫・改善を行うことをこれからも継続していく。「進路指導」は、児童それぞれの進学希望や学力向上に対応した取り組みを行ってきたことで、進学実績の向上に寄与した。また、それぞれの年齢に合わせたキャリア教育についての更なる取り組みが必要であり、今後も検討し実践していく。

Ⅳ教員研修・資質向上
・「肯定的回答」が７０％を超えるのは、「教員の資質向上（教員間での授業内容の評価や意見交換など）（肯・昨年度５７.９％→今年度１００.０％）」「校内研修（肯・昨年度４７.３％→今年度８９.５％）」「校外研修（肯・昨年度４７.３％→今年度８９.５％）」「研修成果の共有（肯・昨年度５７.９％→今年度７３.７％）」の４項目である。

・「教員の資質向上（教員間での授業内容の評価や意見交換など）（肯・昨年度５７.９％→今年度１００.０％）」は、約４２ポイント上昇した。「校内研修（肯・昨年度４７.３％→今年度８９.５％）」は、約４２ポイント上昇した。研修システムの再構築を終え、授業研究会を定期的に実施したことや、「ロイロ認定校」を目指した取り組みも要因と考える。
・「校外研修（肯・昨年度４７.３％→今年度８９.５％）」は、約４２ポイント上昇した。今年度は、昨年度の反省を踏まえ、教員に周知し、研修参加者の増加につなげることができた。
・「研修成果の共有（肯・昨年度５７.９％→今年度７３.７％）」は、約１６ポイント上昇した。来年度も、研修や研究に参加した成果の報告を行い、共有できるようにしていく。
・「初任者のサポート（肯・昨年度４２.１％→今年度６３.２％）」は、約２１ポイント上昇したが、まだまだ６０％台なので、経験の少ない教員へのサポートを、関係部署・管理職だけでなく、教員全員でサポートに取り組んでいく。